

低温・日照不足に対応した土壌消毒について

令和元年 7月 24日

埼玉県農林部

気象庁熊谷地方気象台の7月の気象データによると、本年は平年に比較して、最高気温、日照時間も大幅に低い状況となっています。

従って、現在、太陽熱土壌消毒を行っているハウスでは、地温が十分に上昇しないことから病原菌の死滅温度に達せず、防除効果が十分に得られない恐れがあります。

このため、きゅうり抑制栽培など定植作業までの処理期間が短く、土壌病害の発生が懸念されるハウスでは、薬剤を併用した土壌消毒を検討しましょう。

1 これまでの気象経過

年次	最高気温の積算温度(℃)	最高気温が30℃を超えた日数(日)	日照時間の積算時間(時間)
本年7月	573.0	3	17.3
平年7月	644.1	5	113.0

※数値は熊谷気象台の7月1日から7月22日までの観測値。

※平年値は1981年から2010年の観測値。

2 技術対策

(1) うね立て後太陽熱土壌消毒中のハウス

灌水チューブを設置している場合は、液肥混合器等を利用してクロピクフローを注入する。灌水チューブを設置していない場合は、被覆資材を一時的に除去し、クロルピクリン錠剤をうね面に置いて再被覆する。所要くん蒸期間（地温15～25℃で10～15日間）経過後、ガスが完全に抜けていることを確認し苗の定植を行う。

(2) うね立てをしていないハウス

バスアミド粉粒剤（ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤）またはクロルピクリン錠剤を全面散布し、土壌混和の後に一定期間（バスアミド粉粒剤は地温20℃で10～14日、クロルピクリン錠剤は地温15～25℃で10～15日間）被覆を行う。土壌消毒処理終了後は、ガス抜きを十分行ってから苗の定植を行う。

バスアミド粉粒剤は、きゅうりで定植21日前までに処理開始する必要があるため、計画的に処理開始する。

農薬を使用する際は、以下のホームページ等を参考にしてください。

- 埼玉県病害虫防除所

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/index.html>

- 独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ内の農薬登録情報提供システム
<http://www.famic.go.jp/>